

# みえ発!ボラパックとは?



「少しでも被災地の方々の力になりたい! 現地へ行ってボランティア活動をした!」と考える方々に対し、費用の負担やさまざまな不安を軽減し、一人でも多くの方が現地で活動していくためのボランティアバスツアーです。

週に1便程度のペースで、三重県津市から岩手県山田町に向けての片道約15時間の道のりをバスで運行しました。発災後、先遣隊メンバーが真っ先に現地入りし、第1~4次隊まで、ボラパックの運行のための調整を担いました。その後、4月下旬よりボラパック第1便が山田町に入り、11月中旬の第36便まで継続しました。各便、約10~30名、老若男女のメンバーがひとつのチームとなり、参加者の中から選出したリーダー・サブリーダーを中心に約1週間の行程で活動しました。現地では、三重のボランティア=「みえボラ」の愛称で呼ばれていました。

## 【みえ発!ボラパック】バスに乗る前に・・・

被災地でボランティアする上で最も重要な「心構え」として、当センターからお願いしていた5つのポイント

- (1) 復旧や復興の主役は被災された方であり、それをサポートする存在(黒子)であることを自覚する。
- (2) 何事も自己責任・自己完結を原則とし、被災された方・被災地に負担をかけない。
- (3) 被災された方の立場をできるだけ理解し、自分の判断を押しつけるようなことは避ける。
- (4) 危険がともなうことや重労働となる場合があるため、自分自身で安全や健康を管理する。
- (5) 一人ひとりがチームの一員であることを念頭におき、単独行動を避ける。

### 【心構え】

ボラパック参加にあたり、事前説明会の出席を必須条件としました。日々移り変わる現地の状況、参加するための準備・心構え、安全管理などを共有した上で出発に備えていただきました。帰着した参加者の声から、過去の参加者を交えてのグループディスカッションや、土のう袋講習、携行品展示など、項目を追加し内容の充実にも努めました。また、リーダー・サブリーダーをいつ決めていたのかという、実はこの説明会が鍵であり、聞き入る様子や質問内容などを参考に選出していました。

### 【説明会】



## 事務局ボランティア

現地に行けなくても三重でできるボランティアとして、活躍してくれた事務局ボランティアの皆さん。【みえ発!ボラパック】の最も心強いサポーターであり、長期にわたりボラパックを運行できたのは、陰ながら支えていただいていた皆さんのおかげです。

週に1回程度で行われていた説明会は、設営準備から司会進行・説明までお手伝いいただき、参加前の緊張や不安をほぐす重要な役割を担っていただきました。ボラパックの出発・帰着時には、配布する資料作りや受付などをお手伝いいただき、毎度の温かいお見送りとお迎えはボラパックメンバーの大きな励みでした。そして、ボラパック帰着と同時に帰ってくるビブス(ユニフォーム)を自宅に持ち帰り、活動中の汗や汚れを綺麗に洗濯して落としていただいたおかげで、後続便に気持ち良く引き継ぎできました。



事務局ボランティア登録者数 **143** 人



事務局ボランティア 吉村敦子さん



ボラパックの募集当初は希望者が定員をはるかに上まわり、多くの方にお断りの電話をしなくてはなりません。行ける方、行けない方、どちらの想いも山田町に届けたい生の声でした。説明会の資料作り、説明会当日の準備、ボラバスのお見送り、お迎え、事務局訪問者の対応、電話対応、等々。みえボラのビブスの洗濯のお手伝いもしました。春頃は粉塵の汚れで水は真っ黒で、徐々にビブスから出る水はきれいになりましたが、参加者の汗にまみれた作業を感じる季節となり、「炎天下でこのビブスの人は体調大丈夫だったかなあ」と一人思った暑い日々が続きました。ビブスに貼られた「山田町ボラセン」シールのはがし後に残った「のり」はなかなか手強く、一緒にボランティアに参加している娘と除光液片手に悪戦苦闘。最後の仕上げは荷造りテープで丁寧に取り付けて完成! 私のほんの少しのボランティアが、復興へ近づくと一瞬として参加させて頂けたとしたらとてもうれしく思います。